

Ⅱ 森の現状と課題

1 森の健全性

(杉野)

○現状と課題

戦後の造林運動により、全国で林業地帯、農用林地帯に関係なくスギ・ヒノキ・マツ・カラマツなどが植えられました。それは、本市も例外ではなく、スギ・ヒノキ林が飛躍的に増えました。そのため、50～60年生の伐期を迎えた森が圧倒的に多くなっています。しかし、木材輸入の自由化以降、国産材の価格低迷が続くとともに、林業従事者の高齢化が進み、山林を育てることが難しくなっている現状があります。また、雑木林の利用についても、社会経済の進展により、家庭での燃料も炭や薪に取って代わってガス・電気・灯油などになり、里山、雑木林の利用はなくなりました。スギ・ヒノキ林も雑木林も人の手が入らないという共通の問題を抱えていると言えます。



経済林

市内の森は、それぞれの森の特性から次の4つに分けることができます。

① 平井川北の丘陵地帯（都立羽村草花丘陵自然公園・菅生地区）

里山・雑木林として、かつては人の暮らしと密接に関係してきた森の様相が色濃く感じられます。高木に育ったコナラ・イヌシデなどが多く、薪用材の利用がなく、更新管理が滞った状態にあります。

中高木としては、ヒサカキなどの照葉樹が広がり、本来の多摩地域の原生的林相への遷移過程にあることから人々の利用がなくなって久しいことが伺われます。このことから、下草刈りや萌芽更新などにより、里山再生を行う必要があります。

尾根道は、起伏が少なく明るい道であることから、安全な散策ができます。また、里山の生物が多く生息していることから、これらの保護対策も必要と思われます。



菅生の森

② 秋川南岸の丘陵地帯（都立滝山自然公園・都立秋川丘陵自然公園）

長い年月をかけて秋川が削った河岸段丘の様相で、標高200～300メートルの低い丘陵ですが、北側は急峻な斜面が多く、里山としての利用もあまり行われていない雑木林が広がっています。ただし、尾根道は、広く、コナラの中高木の中にモミの大木が散在する多摩の典型的な風景が尾根道沿いに続いており、緑の中を歩ながら開放感を味わうことができます。



秋川丘陵の尾根道

土壌の風化が進んでいる場所では、地表に植生があっても崩落などで地形変化が進んでいることから、ハイカー等の安全対策が必要です。

③ 戸倉三山に囲まれた盆堀川が造る谷（戸倉地区）

古くは、明治の戸倉村村有林で有名になった林業地帯で、伐採、植林など、計画的な林業経営が営まれてきた地域に引き継がれています。そのため、良く手入れをされたスギ・ヒノキ林が広がっています。しかしながら、伐採、搬出をして、木材として利用されることが、ほとんど行われない状況となっています。



戸倉の森

今後、経済林としての活用を図るため、大径木のスギ・ヒノキを育成するなど、木材需要に応じた適切な施業が必要です。

④ 秋川の北に位置する山間部（秩父多摩甲斐国立公園・小宮地区）

秋川の河岸から大岳山を頂点に続く山間部で、奥山を抱えた林業地帯には、個々の林家の山林を区別する境木として、スギ・ヒノキの大径木も目立ちます。



小宮の森

また、奥山には、原生的な林相が残っており、ミズナラ、イヌブナなどの山地帯の森が広がっています。本地区は、年間を通じてハイカーが多いことから、ハイカーの安全対策や散策路の整備が求められています。

2 沢・滝

(パブロ)

本市には、峡谷と呼ばれるような深い谷や高山と言えるほど標高の高い山はありませんが、1,000m以下の頂を源とする沢が数多く存在しています。これまでの活動中にそれらの数多くの沢の調査を行い、自然資源（滝）の数に驚くべき結果が出ました。

川や沢で確認した2.5m以上の段差がある滝を136か所確認しました（2013年4月現在）。最も数が多かった戸倉地区では、63か所の滝を確認しました。当初は、小宮地区に滝が多いと考えましたが、戸倉三山を源とする水域に多くの段差をもった沢が存在していることが分かりました。これに比べて小宮地区の沢では、滝の数が60か所にとどまっていますが、まだ調査に入っていない沢も多くあることから、今後、数多くの滝が確認される可能性があります。残りの13か所は、秋川丘陵及び五日市周辺で確認しました。

落差に関しては、今まで確認した滝を平均すると約8mになります。大滝と呼べるような、落差が30m以上の滝は3か所、約20mの段差がある滝が8か所もありました。標高が300m程度である秋川丘陵の沢でも約10mの滝を確認しました。

まだ調査に入っていない沢も多くあることから、実際には約150か所以上の滝が存在していると予想しています。

自然資源調査については、今後も引き続き実施する予定です。

<市内の地区別・沢別の滝一覧（合計136か所）>

地区	本流名	沢名	支流名・地名	滝数
小宮	養沢川	御岳沢	御岳沢	5
小宮	養沢川	御岳沢	ビリ窪	2
小宮	養沢川	御岳沢	花水沢	2
小宮	養沢川	御岳沢	大グラミ沢	2
小宮	養沢川	御岳沢	ーッ石沢	1
小宮	養沢川	御岳沢	養沢支流7	2
小宮	養沢川	大岳沢	大岳沢	2
小宮	養沢川	大岳沢	小屋ノ沢	4
小宮	養沢川	大岳沢	ナベワリ沢	4
小宮	養沢川	大岳沢	大岳沢支流	8
小宮	養沢川	大岳沢	鈴ヶ尾沢	6
小宮	養沢川	三ッ合沢	三ッ合沢	1
小宮	養沢川	三ッ合沢	鏡沢	2
小宮	養沢川	宝沢	宝沢	1

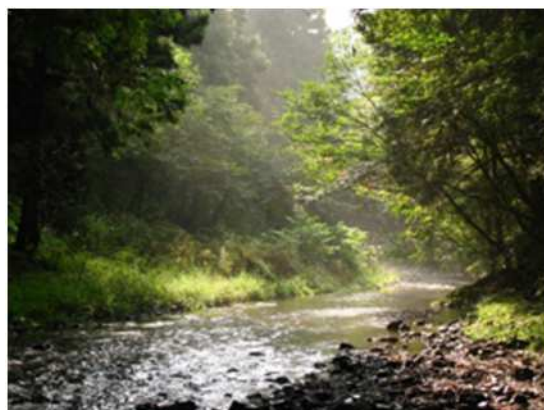
地区	本流名	沢名	支流名・地名	滝数
小宮	養沢川	うとんたわ沢	(うとんたわ沢) 努田畑	2
小宮	秋川	大沢	大沢	1
小宮	秋川	橋沢	橋沢	2
小宮	秋川	矢柄沢	矢柄沢	1
小宮	秋川	加茂の沢	加茂の沢	1
小宮	秋川	穴場沢	穴場沢(畔荷田)	4
小宮	秋川	中山沢	中山沢	7
				(60)
戸倉	秋川	どうの沢	どうの沢	2
戸倉	秋川	番行沢	番行沢	1
戸倉	盆堀川	刈寄沢	逆沢(坂沢)	1
戸倉	盆堀川	刈寄沢	刈寄沢	3
戸倉	盆堀川	盆堀川	盆堀川	4
戸倉	盆堀川	ゆずり はくほ 櫛葉窪沢	ゆずり はくほ 櫛葉窪沢	6
戸倉	盆堀川	伝名沢	三郎ノ岩道窪	7
戸倉	盆堀川	伝名沢	ウスギ沢	5
戸倉	盆堀川	伝名沢	伝名沢	1
戸倉	盆堀川	盆堀川	金ツボ沢	5
戸倉	盆堀川	盆堀川	ナメリ沢	2
戸倉	盆堀川	盆堀川	石仁田沢	3
戸倉	盆堀川	千ヶ沢	石津窪沢	5
戸倉	盆堀川	千ヶ沢	千ヶ沢	3
戸倉	盆堀川	千ヶ沢	市道沢	3
戸倉	盆堀川	千ヶ沢	九郎ベエ沢	1
戸倉	盆堀川	栗の木王沢	栗の木王沢	3
戸倉	盆堀川	オリソコナイ沢	オリソコナイ沢	6
戸倉	盆堀川	オリソコナイ沢	背負越沢	2
				(63)
深沢・五日市	深沢川	三内川	三内川	1
深沢・五日市	深沢川	三内川	深沢川	1
深沢・五日市	深沢川	三内川	大水沢	1
深沢・五日市	秋川	樽沢	樽沢	3

地区	本流名	沢名	支流名・地名	滝数
深沢・五日市	秋川	入野沢	入野沢	1
深沢・五日市	秋川	横沢	横沢	1
秋川・網代丘陵	秋川	花ノ前沢	花ノ前沢	1
秋川・網代丘陵	秋川	庄ノ沢	庄ノ沢	1
秋川・網代丘陵	秋川	蛇沢	蛇沢	1
秋川・網代丘陵	秋川	引谷川	引谷川	1
秋川・網代丘陵	秋川	? (サマーランドの沢)	? (サマーランドの沢)	1
				(13)
あきる野全滝	-	-	-	(136)

＜秋川の支流・沢・滝＞



養沢川



盆堀川



御岳沢（養沢川支流）



大岳沢（養沢川支流）



伝名沢（盆堀支流）



栗の木王沢（盆堀川支流）



オリゾコナイ沢の大滝（約17m）



鈴ヶ尾沢3番目の滝（10m以上）



ウスギ沢下流の滝（約17m）



三ッ合滝下段（全体約30m）



千ヶ沢・松尾の滝（約15m）



ナベワリ沢3番目の滝（約8m）



小滝（20m以上）



不動の滝（4m程度）



刈寄沢2番目の滝（10m以上）



市道沢1番目の滝（4m程度）